

# 2021 年度入試状況分析【国公立大】

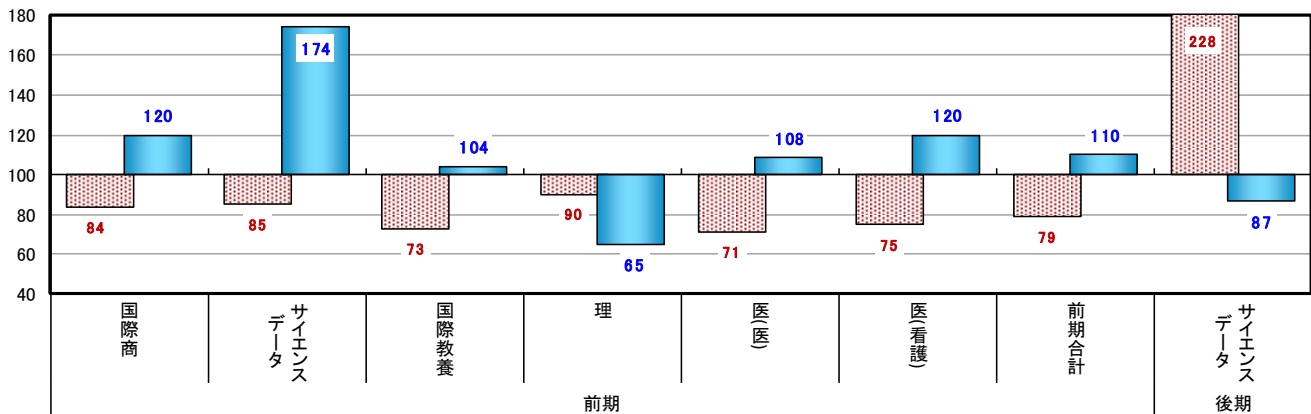
横浜市立大：前期は4学部で増加、理のみ大幅減少

前期：+198人 後期：-13人

※前年度の志願者数を100とする指数

□2020年度/2019年度

■2021年度/2020年度



## 入試変更点

第1段階選抜基準：医(医)〈前〉…約3倍(通過予定人数：210人)

→共通テストの配点の合計点原則750点以上、倍率約3倍(通過予定人数：210人)

募集人員：医(医)…〈前〉(地域医療枠)14人→10人

## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は198人(110)の増加で3年ぶりの増加。理97人(65)の大幅減少を除いた5学部・学科(医、看護は学科別集計)は全て増加、特にデータサイエンス105人(174)の激増と、国際商122人(120)、医(看護)23人(120)の大幅増加が目立った。後期はデータサイエンスのみの募集だが、前年度倍増以上の激増の反動で減少し13人(87)の減少、志願倍率も19.6倍→17.0倍にダウン。

### <前期日程>

- 国際商(120)は、系統への人気は低下しているが、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も3.2倍→3.9倍にアップ。
- データサイエンス(174)は、2018年度の新設以降2年連続大幅減少の反動で激増。志願倍率も3.5倍→6.2倍にアップ。
- 国際教養(104)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まり、志願者数は2年連続700人を下回った。
- 理(65)は、大幅減少で2年連続減少し、志願者数は200人を下回った。志願倍率も4.0倍→2.6倍にダウン。方式別では、個別試験が数+理2の〈A方式〉(90)は2年連続減少、個別試験が数+理1の〈B方式〉(41)は前年度大幅増加の反動で半減以下の大幅減少。
- 医(医)(108)は、前年度大幅減少の反動で増加。募集人員(前年度募集人員対比指数95)が減少したため、志願倍率は3.2倍→3.7倍にアップし、競争激化。
- 医(看護)(120)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率は1.8倍→2.1倍にアップし、2年ぶりに2倍を上回った。